

「まちなかケア」に4億円

4月開館 保育・医療8事業

富山県は、旧総曲輪小学校跡地で4月にオープンする「まちなか総合ケアセンター」で、産後ケアや病児保育、訪問診療など八つの行政サービスを展開する。保育や医療に関するサービスを総合的に提供していく予定で、森雅志市長は「一人一人の生活に寄り添い、サポートする体制が整う」と説明した。各種の事業費の合計は4億円で、2017年度予算案に計上した。

八つの行政サービスのうち、「産後ケア応援室」は、産後4カ月までの母子が宿泊した不安定な状態となった母親ら

を専門家がサポートする。自治体が直営するのは全国初。

「病児保育室」は、お迎え型病児保育の拠点になる。お迎え型は、子どもが急に保育所で体調を崩し、保護者がすぐに迎えに行けない場合、保育士と看護師が保育所に出向く。かかりつけ医を受診し、病児保育室で預かる。

訪問診療を提供するため、「まちなか診療所」も設ける。医師は3人おり、利用者の体調の急変にも対応できるよう24時間体制を取る。

このほか、障害児の相談支援事業を行う「こども発達支援室」や、医療・介護の相談を受け付ける「医療介護連携室」、健康講座を開催する「地域連携室」、住民の憩いの場として開放する「まちなかサロン」、医療関係者が会議



富山県が旧総曲輪小学校跡地で整備を進めている「まちなか総合ケアセンター」。4月にオープンし、産後ケアや訪問診療など各種事業が実施される

で利用する「カンファレンスルーム」を設ける。